

国 語 科

「読むこと」事柄の順序を考えながら内容をとらえる学習を工夫しましょう

- 1 出題のねらい 事柄の順序を考えながら、内容を読み取ることができる。
- 2 正答率が低い要因 (2) (1) 正答率 74.7% 期待正答率 75.0% (2) 正答率 65.6% 期待正答率 60.0%)

説明文を読み、内容を的確にとらえることができるかを見る問題である。書かれている事柄の順序に従って、内容を押さえながら読む力が十分に身に付いていないと考えられる。

- 3 要因を踏まえた指導上の留意点
～「じどう車くらべ」(光村図書 1年(上))の実践例～

(1) 書かれている事柄の大体を読み取る

めあて 自動車のどのようなことについて説明しているか内容の大体をとらえる。

発問1 「自動車のどんなことをくらべていますか。」

発問2 「どの自動車の説明にも使われている言葉は何ですか。」

読みの視点を明確に！
どんなしごと・どんなづくり
↓
(例) ○で囲んでみよう。
しごとについて書いてある部分→赤
づくりについて書いてある部分→青

① 各事例の書き表し方の共通点を見付けさせる。
(例) 「そのために」「しごとをしています。」
② 短文作りを行い、接続語の働きに気付かせる。
(例) 明日は遠足です。そのために、わたしは…。
「そのために」の続きの文を書きましょう。

(2) 書き表し方(順序)に着目しながら読み取る

めあて 仕事に応じた自動車の作りについて読み取る。

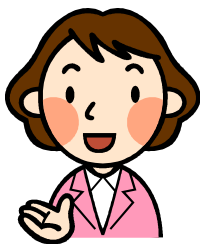
発問 「づくりの部分の書き方のひみつを見付けよう。」

範読、一斉読み、指名読みなど、
多様な音読を取り入れ、読み浸ら
せましょう。

① 「しごと」→「づくり」の順に説明していること。
② 二つの文で説明していること。
* 「づくり」の一文目と二文目の違いに着目させましょ
う。

(3) 読み取ったことを活用しながら書く

めあて 他の自動車の「仕事」と「づくり」について 調べたことを書く。



① まとめ方を具体的に示しましょう。
② 児童の実態に合わせ、づくりの部分
を二文で書くことに
挑戦させましょう。

○○は、しごと
をしています。
そのために、

「読むこと」読み取ったことを生かした書く学習を工夫しましょう

- 1 出題のねらい 時間的な順序, 事柄の順序を考えながら, 内容を読み取ることができる。
- 2 正答率が低い要因 (4) (3) 正答率 48.1% 期待正答率 55.0% (4) 正答率 20.0% 期待正答率 40.0%)

文章のおおまかな内容をとらえたり, 文中の言葉を用いてまとめたりする問題である。順序に従って全体的内容をとらえる力が不十分である。また, 大事な言葉や文を書き抜いたり, それらを書き換えたりする機会が不足していると考えられる。

3 要因を踏まえた指導上の留意点

(1) 接続語に着目して読み取る

「たんぽぽのちえ」(光村図書 2年(上))で学んだこと
□順序を表す言葉に着目して読む。「とき」→「春になると」「二, 三日たつと」「やがて」,
□接続語と文末表現に着目して読む。「なぜ」「どうして」→「～からです。」「～のです。」「けれども」「でも」「このように」

～「サンゴの海の生きものたち」(光村図書 2年(上))の実践例～

めあて 大きな魚とホンソメワケベラのかかわりについて読み取る。

発問「『こうして』を使って, 大きな魚とホンソメワケベラのかかわりについてまとめましょう。」

⑥…クマノミは, この魚が近づいてくると, カチカチと音を立てて, おいはらってしまいます。こうして, イソギンチャクとクマノミは, たがいにまもり合っているのです。

⑨…ホンソメワケベラにとっては, そうじをしてとった虫が, 食べものになるのです。<こうして, ホンソメワケベラと大きな魚たちは, ()ののです。>

「こうして」の役割を押さえた上で, かかわり合いについての確かな言葉でまとめさせましょう。

(2) 書き表し方の工夫に着目して読み取る・読み取ったことを確かめる(書き換え)

～「一本の木」(光村図書 2年(下))の実践例～

めあて 第3段落と第5段落に着目させ, 「かく事柄+条件」の書き表し方を読み取る。

発問1「第3段落の1文目と2文目は, それぞれどのような動きをしているのでしょうか。」

③…つぎに, みきのいちばん先から, 二本に分かれたえだをかきます。二本のえだは同じ長さで, それぞれ, みきの半分の太さにします。

反応 1 文目…枝のかき方, かき方の紹介, かき方の説明
2 文目…かき方のポイント, 長さとお太さの説明, かくときの注意

段落内の文と文とのつながり(かく事柄+条件)についても着目させましょう。

発問2「(第3段落の読みを生かして)第5段落を二つの文に書き直してみよう。」

⑤…同じようにして, 二本ずつだんだん分かれていくえだをかいて, そのたびに, 細くみじかくしていきます。

国 語 科

「読むこと」 目的に応じて中心となる語や文をとらえる学習を工夫しましょう

1 出題のねらい 目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。

2 正答率が低い要因 ([5] (2) 正答率 25.5% 期待正答率 40.0%)

説明している内容を与えられた観点で短い文章にまとめる問題である。繰り返し出てくる言葉や段落ごとの中心となる文を十分にとらえることができなかつたと考えられる。

3 要因を踏まえた指導上の留意点

(1) 中心となる語や文に着目しながら書かれていることを読み取る

「ありの行列」(光村図書 3年(上))で学んだこと
 段落に着目して読む。この段落は何について書かれた段落? → 「問いの段落」「答えの段落」
 段落の中で一番大事な文、中心になる文に着目して読む。
 繰り返し出てくる言葉、題名とつながりのある言葉に着目して読む。

～「すがたをかえる大豆」(光村図書 3年(下))の実践例～

めあて 中心文に着目して、大豆の特徴や大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。

① 2段落の読み取り場面

発問「いろいろ手を加えて食べるのはどうしてでしょう。理由が書いてあるところに線を引きましょう。」

② 3～7段落の読み取り場面

発問「この段落に書かれていることを『OOな工夫』という書き方で短くノートにまとめましょう。」

(2) 書かれている内容を大きくとらえてまとめる

めあて 大豆の姿や手の加え方とできる食品について内容を整理しながら読み取る。

発問「おいしく食べる工夫とできる食品を表にまとめてたしかめましょう。」

書かれている順序を意識させるため、接続語にも着目させましょう。

7	6	5	4	3	段落
これらのほかに	さらに	また	次に	いちばん分かりやすいのは	段落はじめの言葉
とり入れる時期や…	目に見えない 小さな生物…	えいようだけを 取り出して…	こなにひいて 食べるくふう	やわらかく おいしくするくふう	おいしく食べるくふう
もやし えだ豆	みそ しょうゆ なっとう	とうふ	きなこ	いり豆 煮豆	食品

繰り返し出てくる言葉をキーワードとして押さえましょう。

「OOな工夫」という書き方で短くまとめさせましょう。

「読むこと」段落相互の関係を考えながら読む学習を工夫しましょう

1 出題のねらい 目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。

2 正答率が低い要因 (5) (3) 正答率 46.8% 期待正答率 60.0%

段落ごとに内容を整理して表にまとめる問題である。段落相互の関係や中心となる文をとらえて、関連付けて読む力が十分でないと考えられる。

3 要因を踏まえた指導上の留意点

(1) 段落相互の関係や事実と意見との関係を考えながら読み取る

「かむことの手」(光村図書 4年(上))で学んだこと

- 段落と段落をつなげて、大きなまとまりをとらえる。
- 段落のまとまりどうしの関係を考える。
- 形式段落ごとに中心となる文をとらえる。(述べ方：大事なこと→説明)

～「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年(下))の実践例～

めあて 段落の役割を理解し、段落相互の关系到注意して文章を読み取る。

発問 「かむことの手」で学習したことを生かして、この文章を三つのまとまりに分けましょう。また、分けた理由も考えましょう。」

<ヒント>

【始め】

- [話題提示] ⇒～ます。
- [定義付け] ⇒～いいます。
- [問いかけ] ⇒～でしょう。

【中】

- [アップの具体的な事実]
- [ルーズの具体的な事実]

【終わり】

- [筆者の意見] ⇒～のです。

文末表現の違いに気付かせましょう。

めあて 中心となる語や接続語をとらえ、段落相互の关系到考えて文章を読み取る。

発問 1 「アップとルーズで、伝えられることと伝えられないことを3行程度にまとめましょう。ただし、『しかし』、『でも』と『分かる』、『分からない』という言葉を使いましょう。」

反応

- アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。しかし、写されていない多くの部分は分からない。
- ルーズでとると、……。

「書く活動」(条件付き)を取り入れ、読み取ったことを確かめさせましょう。

発問 2 「4～6段落の文章の中で、読み手に分かりやすく伝える書き方の工夫を見つけて、ノートに二つ以上書きましょう。」

反応

「読む活動」(範読・音読・黙読)を取り入れ、文章に向き合わせましょう。

- 4と5段落は、アップとルーズのとり方を比べて書いている。
- 6段落は、4と5段落に書いてあることをまとめている。
- 「しかし」、「でも」を使って…

読み取った「書き方の工夫」を、新聞や意見文づくりに生かしましょう。

国 語 科

「読むこと」 目的に応じて要旨をとらえる学習を工夫しましょう

- 1 出題のねらい 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる。
- 2 正答率が低い要因 (5) (3) 正答率 29.3% 期待正答率 50.0% (4) 正答率 29.9% 期待正答率 40.0%
 説明文の段落分け、要約した文章に適切な言葉を入れる問題である。文章全体の構成を考えたり、要点や要旨を的確にとらえたりしながら読む力が不足していると考えられる。

3 要因を踏まえた指導上の留意点

(1) 学んだことを生かして、自分の力で資料を読み取る

「サクラソウとトラマルハナバチ」(光村図書 5年(上))で学んだこと
 段落の内容をキーワードや中心文を使ってまとめる。
 段落の役割を考えて読む。
 要旨をとらえる。

～「人と『もの』とのつき合い方」(光村図書 5年(上))の実践例～

めあて 資料「ごみ問題ってなあに」を読み、「ごみ問題」に関する自分の課題をもつ。

発問 1 「学んだことを生かして資料を読み、筆者の述べたいことをまとめましょう。」

反応 江戸時代の人たちやマラウイの子供たちの暮らしには豊かさが感じられる。今の日本の社会は豊富な物に囲まれごみが増え続けている。ごみ問題を解決する工夫が必要である。

学んだことを生かして、筆者の考えをとらえさせましょう。

発問 2 「筆者の考えに対する、自分の意見とこれから調べたい課題を書きましょう。」

反応 ごみ問題で気になっていることは、使えるのに捨てることです。いろいろなものに新しい命を吹き込むために、自分ができることについて考えていきたいと思います。例えば…
 わたしが調べたい課題は…。

二段落構成で書く、自分の考えには、根拠となる生活経験を入れるなど、条件を示して書かせましょう。

(2) 要点を押さえながら文章全体の内容を読み取る

～「ニュース番組作りの現場から」(光村図書 5年(下))の実践例～

めあて テレビのニュースの特集が放送されるまでの過程を読み取る。

発問 「ニュースの特集が放送されるまでの過程を表にまとめましょう。」

原稿	編集	さつえい	会議②	取材	会議①	話題選び	過程
	二日前		八日前		十六日前		時間
1	0	9	8	7	4	3	2
							段落

過程が明確になるように、キーワードを見つけてまとめましょう。

仕事の流れを読み取り、次の活動に生かすため、過程を中心に表にまとめさせましょう。

国 語 科

「読むこと」読み取ったことを条件に沿って書く学習を工夫しましょう

1 出題のねらい 文章の内容を的確にとらえることができる。

2 正答率が低い要因 (4) (5) 正答率 16.8% 期待正答率40.0%)

文章を読み、例にならって要点をまとめる問題である。記述はするが正答に至らない解答が60%以上見られる。題意をとらえ、複数の条件に沿って書く力が十分でないと考えられる。

3 要因を踏まえた指導上の留意点

(1) 複数の条件に沿って考えを書く

「生き物はつながりの中に」(光村図書 6年(上))で学んだこと
□筆者の言いたいことは、どのまとめり、どの段落、どの文に表れているか探す。
□作者の意図に沿って、文章中の大事な言葉を落とさずに要約する。
□筆者の考えについて、自分はどのように考えるかを書く。

～「平和のとりでを築く」(光村図書 6年(下))の実践例～

めあて 文章全体の内容を短くまとめ、自分の考えを書く。

先生も要約文を書いてみましょう。
個への支援と評価がしやすくなります。

①文章全体から筆者の主張をまとめる。

発問1「筆者がこの文章を通して訴えたいことを、140字程度で要約しましょう。ただし、読み取りでキーワードとした『原爆ドーム』、『世界遺産』、『平和のとりで』という言葉を使うこと。」

②筆者の主張に対する自分の考えを書く。

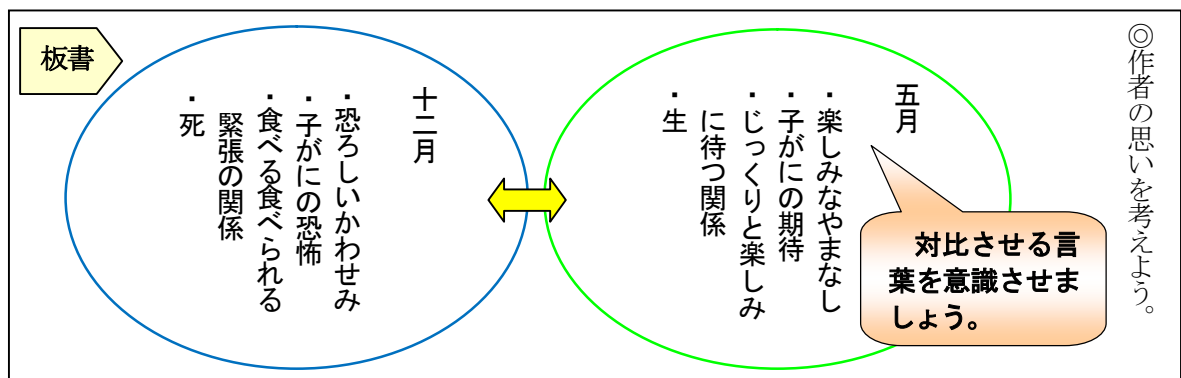
発問2「筆者の主張について、立場を明確にして自分の考えを書きましょう。」

(2) 読み取ったことを基に、考えを書く

～「やまなし」(光村図書 6年(下))の実践例～

めあて これまで読み取ってきた「五月」と「十二月」の場面を比べ、作者の思いを考える。

①「五月」と「十二月」の場面に見出しを付ける。



②「やまなし」にこめた作者の思いを考える。

発問「作者が大事に思い、読心人に受け止めてほしいと願ったことをノートに2、3行で書きましょう。」

反応 ・かわせみのように不安を与える人より、やまなしのように安心を与える人になってほしい。
・食べる、食べられる関係のある厳しい自然の中で、生きることを楽しく思っしてほしい。